

「留真温泉再建」と 「道の駅」の 整備に向けて

Part . 2

町広報紙 8月号に「留真温泉」と「道の駅」の整備計画について、検討経過を掲載しましたが、その後の概況をお知らせいたします。



留真温泉検討委員会 (7月21日開催・要約)から

印は委員の発言
は事務局側の発言

会議のあり方と 建設の是非について

○この会議は、町の提案通りに温泉を建設した場合に対して協議をするためのものですか。それとも、もっと根本的なことから協議する会なのですか？

前回の会議で平面図や配置図を提示しましたが、その図面が本決まりについては、現在計画している場所を予定しております。ですから、集客方法など健全経営できるように皆様に検討いただきたいと思えます。

検討委員会は決議機関ではなく、提案を主に考えていく組織なので、意見を聞く場として、この会を設けていますことをご理解願います。

○前回の委員会の事が新聞に掲載されましたが、そのことが町民の反響を呼んでいます。昨年は公共料金を値

上げしました。町民は負担が増えているときに新たに借金が増えることに対して、本当に留真温泉建設が必要なのか疑問に思っています。町民の建設反対の意見は聞いてもらえるのでしょうか？

反対の意見も聞きたいと思っています。何事にも賛成・反対はありますので、その件については総合的に考えて決断します。

財政については、今までは単年度収支の赤字が続いていましたが、平成17年から黒字に転換し、黒字傾向の兆しが見えてきた状態です。限られた中で、どのようにできるかが今後の検討課題です。財政が許さなければこの計画は白紙になりますし、この交付金事業を申請した場合、途中でやめる事はできないので、その辺を踏まえながら検討を進めたいと思っています。

平成19年までに設計図ができればと考えていますので、それまでに、より良い温泉造りのアイデアを出していただきたいと思います。

○財政負担軽減のため、建物を建設するのではなく、現在閉館中の施設再利用を含め、温泉の湯を市街地まで運ぶという意見は出せませんか？

確かに農村センターや公衆浴場等の温泉利活用を兼ねた意見をいただいています。そのためにはタンクローリーなどによる運搬が必要にな

り、人件費や運搬経費等の経費が増大します。

職員のプロジェクト会議や第1回の町民検討委員会を積み重ねてきた経過もありますので、町としては現在地建設で検討を進めたいと思っています。

○せっかく行政で購入したものが、湯元だけ町で保有し温泉の施設建設と経営については、その道のプロにまかせた方がいいのではないのでしょうか？

温泉の湯元は町の保有となっております。今までの経過からしても、留真温泉は町民の貴重な財産として考えておりますので、敷地や湯元等を他に売却する考えはありません。

宿泊施設の検討について（独立したコテージなど）

現段階での補助申請の中には、宿泊施設の建設計画が入っていませんが、経営上、宿泊施設がなければ難しいだろうとの意見は、職員による再検討プロジェクト会議でもありました。将来的にどのような宿泊施設が望ましいか検討した結果、現在は団体客よりも家族旅行など少人数での旅行者をターゲットとした営業展開を行っているところが成功しているようです。

そこで、コテージであれば管理費等の経費が軽減されることから、十勝管内のコテージの経営概要を調べてみました。

平成6年に建設された清水町の「フロイデ」は、お風呂や休憩室についても大きく、レストランもあります。しかし維持管理費がかかり、経営状況があまりよくなかったようです。そのため、コテージ形式により集客を計ることとし、当初の5棟から、今では全9棟を保有し満室状態です。（冬場の利用状況については確認していません。）

浦幌町においても経費軽減を考えれば、コテージ形式の宿泊棟が望まれると思います。現在の計画では食事や宿泊する施設はありませんが、将来的に不足している施設の建設も考えなければいけないと思います。

○清水町のコテージは、町が経営しているのでしょうか？

全部町で経営しています。コテージの方は経営状態は良いようですが、温泉経営は苦戦しているようで、町から無料ハイヤーの送迎も行っているようです。

○ほかのコテージは、採算がとれているのでしょうか？

利用状況を見ますと採算がとれていると思います。現在聞いている状況では、清水町も陸別町もお客様の利用は好調のようです。

また、インターネットの情報ですが、最近のコテージの室内はホテルとほとんど変わらないつくりとなっております。

○15人用のコテージであれば、30人ぐらいでの宴会は可能だと思いますし、宿泊するときは各棟に分散して泊まることができ、一軒屋ですからカラオケも周りを気にせずにできると思います。

○後々のことを考えると、経営上安全なのは、やはりコテージなのかなと思います。

その他の質疑・意見

○私は、一回目の検討委員会に出席した時に、行政側で基本線が大体できていたので少し驚きました。会議が終わって色々なところから意見をいただきた考えでしたが、観光事業の基本から外れているような感じがします。銭湯をちょっと大きくしたような建物では魅力を感じませんし、全国の色んな温泉を見ますと、見て遊んで食べてそこに泊まるというような基本が温泉ではないかなと思います。今回の案を見ると食べるところも、泊まるところも無いですね。



そのことも含めて検討を行い、皆様と協議を進めたいと思います。

○新築後の収支計画はどうなっていますか？

入浴料を大人600円（子供300円）に設定し、過去の日帰り客年平均2万6千人を掛けた入浴料の売上げを1千482万円、売店や自販機を含め計1千539万円の収入見込みです。一方、人件費や光熱費の支出は計1千490万円とし、当面は年間約49万円の利益が計上される予定です。お風呂の湯は掛流しと循環を併用し、新エネルギーの活用を検討し、高騰する燃料費を極力抑えてまいります。

○「フロイデ」は、コテージの利用頻度が高くて、お風呂の利用はそれほど伸びていません。留真温泉も、市街地から相当離れているので年配の方々がどのように通うのか問題です。それを補うために送迎をすれば経費が余計にかかることとなり、町民が気軽に通えるとは思えません。

一概に距離の問題だけで利用客数は左右されるとは思いません。

大樹町の「晩成温泉」は、近隣町村を含め、遠くからの利用者が多く、意外なことに大樹町民は忠類の「ナウマン温泉」を利用して利用しています。宿泊は研修センターを利用して泊るようですが、週末になると駐車場は満車の状態です。足寄町の「芽登温泉」は、市街地よりかなり離れていて浴槽も5人でいっぱいになるぐらい狭いですが、数十年にわたり経営しています。

本来は、施設は近いところにあるのが一番ですが、留真には溪流があり山菜があり、自然豊かなところが魅力の一部なので、総合的に判断した場合、源泉のあるところが望ましいと思います。

○現状の交通量の少ないところの温泉建設で利用客は来るでしょうか？

温泉利用は、通りすがりの方が衝動的に利用することはまれだと思います。温泉入浴を目的とした方が利用するのであって、多少離れたところとはいえ、目的をもった方は利用すると思います。

○バスの送迎は町としてはどのような考えをしますか？

それと、浴槽は大きく出来るのかどうかお聞かせください。

バスの送迎はしなければならぬと思いますが、指定管理者制度により請負った方がどのような経営方針で行うかによると思います。

また、浴槽の大きさですが、皆さんの意見により多少大きくすることはできると思いますし、前回お配りした図面はあくまでも素案ですので、多少の変更は可能です。

○温泉は大きいにこしたことはないですが、後で、当初の収入見込みと比べて営業利益がなかった場合どうするのか、その辺が非常に難しいと思います。

○温泉は、距離の問題ではなくどれだけ魅力作りを行いリピーターを増やすかが、経営していくのに一番大事なことだと思います。

(町長より) 本日は、大変お忙しい

中お集まりいただき誠にありがとうございます。ありがとうございました。

先ほどお答えした通り、私は反対意見に耳を傾けないとは言っておりません。普段は大体夜の7時〜8時まで町長室にいますので、お越しいただけるのであれば、お気軽にきていただき、お話ししたいと思います。

産業交流施設準備委員会 (7月13日開催) から

役場会議室において、産業交流施設(道の駅)の具体化に向けた準備委員会の初会合が開かれ、建設の是非を含め、経営にかかわる基本事項が協議されました。

会合での主な意見

○オープン時は物珍しさもあり、大半の物産館は、売り上げは良いが、次年度から落ち込む傾向にあるので、事前対策が必要では・・・。

○ソフト事業(イベント)や集客しやすい環境整備(車輛入口等の拡大等)も交通安全上必要だと思ふ。



○産業交流施設が建設されれば、通常開設で24時間トイレは確保される。また、隣接してレストランがあることで「道の駅」としての条件を満たすため、開発局で行っている「道の駅」スタンプリーパー等のイベントに取り上げられ、集客につながっていくと思ふ。

○中札内村の「道の駅」は、周辺一帯が観光化されていて、休憩ポイントとしてだけ利用されているのではなく、「中札内道の駅」自体が目的地とされて多くの観光客が利用している。候補地は森林公園も近いので、公園にお客様を呼び込む為のアイデアが必要だと思ふ。

○候補地は閉館中の農村環境改善セ

ンターに隣接しているが、この施設を町の経済活性化の核となるような施設として充実させ、その中で街中にお客様が流れるような方策を考えていきたい。

○事前に候補地でイベント用テントを使用し、実験販売を行ってみてはどうか。

○将来構想は、自主経営なのであれば、この会で行うのではなく、関係者で進めていただければよいのでは。

○産業交流施設内にもテイクアウト方式の店があれば、お客さんの足止めが可能となり、全体的な売り上げにつながると思う。

○この施設で販売された食材を町内飲食店に持ち込みした場合、その素材を使って調理してもらうことができれば、街中との相乗効果が期待されると思う。

今回は、準備委員会メンバーによる管内の「道の駅」研修視察を実施することを決定し、散会しました。

「道の駅」研修視察

産業交流施設準備委員会のメン

★パブリックコメント★

町民の皆さんのご意見を募集します

パブリックコメント制度とは・・・

行政などが、条例や計画などの制定や策定をする場合、その原案を公表して町民などの皆さんの意見を求め、それらを考慮して決定する制度です。

町では、まちづくり交付金事業による「浦幌地区都市再生整備計画」を策定します。

国土交通省のまちづくり交付金事業を活用し、平成19年度から22年度までの4年間で「留真の里交流施設整備（留真温泉）」「産業交流施設整備（道の駅）」「町道健康公園通歩道改築」を計画しています。

現在、町民の検討委員会による協議をしておりますが、今回、計画（案）を公表し、町民の皆さんからの幅広いご意見を募集します。

■意見を募集する期間

9月1日（金）～9月29日（金）まで

■対象者

町内に住所を有する方

■原案の入手方法

①9月1日から次の窓口で計画書（案）の閲覧

または配布をいたします。

▽役場まちづくり政策課地域政策係

▽役場上浦幌支所

②9月1日から町ホームページに掲載します。

アドレス <http://www.urahoro.jp/>

■意見提出方法

次の方法により提出してください。

○郵送 ○電子メール ○ファックス

○直接文書などを持参する

■提出及び問合せ先

役場まちづくり政策課地域政策係（内221）

バーが7月28日、音更町、土幌町、鹿追町（2ヶ所）の四施設を訪問し、運営形態や販売スペース、品揃えなどを調査しました。

運営主体は、音更町が行政、土幌町がJAと町振興公社、鹿追町は町民主体の「直売会」です。

音更町の道の駅については、物産品のアンテナショップの役割を重視し、営利追及はさほど重要視していないので、平成17年度は人件費を含めて560万円の赤字を出して、その分は町の財源より持ち出しているとのこと

です。朝市協議会が、常設テントで5月から10月までの第2・4日曜日に農産品等の販売を行っているのが特徴です。

土幌町の道の駅は、農協と物産公社が経営母体で、レストラン部門が大きな位置を占めており、物販売上げを大幅に上回っています。音更町との共通点はガソリン・スタンドが隣接しているところです。

「道の駅しかおい」は町民からの出資金と会費による「直売会」が事業主体となり、商工会が係っています。直

売所の棚には出店者の名札と写真が付き、自己責任で品物の出し入れや管理を行う方式。情報発信とトイレ施設は別棟で、冬期間は休業するので夏仕様の簡易な造りです。直売会の窪田会長からは、「町民にも愛される施設に」「既存の飲食店へも波及効果が出るので前向きに考えるべきだ」とアドバイスをいただきました。

今回の準備委員会の協議経過は次号に掲載します。